

特定非営利活動法人神奈川県認定  
柔道教育ソリダリティー

### 第19回講演会

戦争とスポーツの間で」

明石 康

元国連事務次長・公財国際文化会館理事長

2018年6月14日(木)

インターコンチネンタル 東京ベイ

**司会** それでは時刻になりましたので、明石康先生の講演会をはじめさせていただきます。

私事ですが、今日は明石先生にお会い出来るということで、とても嬉しく思っています。一度お会いしたい、本当に一度お会いしたい方ございました。

明石先生は現在、公益財団法人国際文化会館の理事長をされています。世界平和について、もう語りつくせないほどのお役職を過

ごしていらっしゃった方で、世界

の平和について語られる方として  
は、第一人者ではないかと思っ  
ております。明石先生は、元国連事  
務次長を務めてこられました。

我々も様々な活動をニュースやメ  
ディアを通して目にしてきました。

今日は、本人の最後の講演会  
になります。そこに明石先生をお  
招きさせていただいたということ  
は、大変栄誉あることだと思っ  
ております。1時間という短い時間  
ではございますが、皆さまに聞い  
ていただきたいと思えます。明石  
康さんです。どうぞ拍手を持って  
お迎えください。

### 第19回講演会

「戦争とスポーツの間で」

明石 康

皆さん、こんばんは。ただいま  
ご親切なご紹介に預かった明石康  
でございます。今日このようにし  
て、柔道教育ソリダリティーの組  
織として、最後の講演会で話をさ  
せていただくことを大変光栄に存

じております。



私は、普段あまりスポーツとは  
関係のない世界に生きております。  
柔道をはじめ、色々なスポーツに  
従事しておられる皆さま方の前で  
少し緊張しております。

柔道教育において、我が国のひ  
ときわ光った、有名な存在である  
山下八段に、六本木の鳥居坂にあ  
ります国際文化会館で、毎年年末  
に開催される会員晩餐会で、お話  
をしていただきたいとお願いま  
した。山下さんには、快く引き受  
けていただきました。しかし、そ  
の代わりにというとなんなのです  
けれども、柔道教育ソリダリティ  
ーで、今までの私の経験に基づい  
た話をして欲しいという依頼を受

けました。そこで、今日は断るわ  
けにもいかずこのように参りまし  
た。

### 国際オリンピック休戦財団

理事として

私は、猪谷千春さんを存じ上げ  
ております。猪谷さんは、国際オ  
リンピック協会（IOC）で、大  
きな存在として活躍しておられま  
す。IOCの一機関として、国際  
オリンピック休戦財団ができるこ  
とになった際、その理事をやっ  
てもらえないかという話がありま  
した。

オリンピック休戦、ないしは休  
戦財団というのは、皆さんには耳  
慣れないかもしれませんが。紀元前  
8世紀にオリンピックがギリシャ  
において生まれた時に、オリンピ  
ック期間はもちろん、オリンピッ  
クが始まる1週間前、オリンピッ  
クに参加する人たちが、それぞれ  
の都市国家から会場に到着するま  
での間、それからオリンピックを  
終え、それぞれが都市国家に戻る、

大会後1週間。つまり、オリンピックの期間プラス2週間の間は、戦争をしないという協定を作りました。驚くべきことにこのオリンピック休戦という一種の都市国家間の条約は、数百年にわたって守られてきた記録があります。

IOCも世界中に戦争や紛争が絶えないことにかんがみ、古代オリンピックの時代を偲んで、戦争や様々な衝突がせめてオリンピック期間だけでもなくなるよう、オリンピックをきっかけに、より永続的な休戦、休戦から本物の平和が来るように期待と願望を込め国連総会にオリンピック休戦の決議を挙げています。

国連総会は毎年9月に始まり、夏季オリンピックは4年に1回、冬季オリンピックも入れますと、2年ごとにオリンピックは行われます。ですので、国連総会も隔年ごとに、オリンピック休戦を實行してほしいという決議を採択してきております。これはだいたい満場一致で可決されています。

私も、尊敬する猪谷さんからのご依頼で、理事の一人として参加することになりました。アジアからは私一人だけで、約10年間理事を務めました。そこにはオリンピックの選手として大活躍し、たくさんの方のメダルを持っているポーランド出身の女性や、様々なオリンピック関係者、そして国連事務総長であったエジプト出身のブトロス・ベグ先生、ペルー出身のペレス・デ・クエアルさんなども顔を見せていました。

私は生来、口が悪いものですが、これでは元国連官僚の墓場ではないかということを行いました。関係者はただ苦笑いをしていました。IOCが作ったオリンピック休戦財団は現在も機能しております。IOC会長が、このオリンピック休戦財団の会長も務め、（オリンピックはギリシャで生まれたものだから）、副会長を、ギリシャの外務大臣や首相をやったパンドレオさんが務めました。この人はたいへん明晰な考え方を

する素晴らしい人で、他に国連その他の経験者が集められ15、6人の小さな会議を毎年一度行い現在に至っております。

この財団が進めようとしているのが、まさにオリンピック休戦のアイディアなのです。今やギリシヤだけではなく、2年ごとのオリンピックを契機に、世界で絶え間なく続く紛争において、休戦や停戦が行われるように、そしてそれが安定的に持続するようにという願いを込めて活動してきております。

## オリンピック休戦と

### 平昌オリンピック

韓国で今年の初めに行われた平昌オリンピックをきっかけに、IOCまた韓国政府も一緒に、オリンピック休戦を進めていきました。特に南北両朝鮮の間で、出来れば二つチームではなく、南北合同チームを作り、平昌オリンピックに参加してほしいという呼びかけが韓国から北朝鮮に対して行

われたのです。

韓国の今の大統領は今までの保守的な政権と違って、平和に対してある程度リスクをとっても踏み出すという姿勢があります。北に呼びかけたら、北の方は待つていました、とばかりに平昌のオリンピックに参加することになりました。そして、その準備のために、強力な政治的使節団を韓国に派遣してきました。これが見る見るうちに朝鮮半島における南北首脳会談という形で結実しました。

この南北朝鮮半島の首脳会談が行われたときに、私はたまたまソウルに行っておりました。日本と中国と韓国の3カ国の有識者、国際政治や軍事問題に造詣がある人たちの集まりが行われておりまして、我々は、朝からずっと会議をしておりました。その日の夜も予定になかった会議をやり、日中韓3カ国の有識者がオリンピック休戦をきっかけとする南北朝鮮会談を、息を飲んでテレビに釘付けになって見ていたわけでした。

## スポーツが紛争や戦争の休戦へ 貢献できるか

日本でも東京オリンピックを指して、オリンピック休戦のための署名運動が発足しております。これは皆さんよくご存知だと思いますが、「スポーツゴジラ」という少し毛色の違う…。そう言うと編集長の長田渚左さんに怒られそうですが、大変読み応えのある良い記事がたくさん載っている雑誌があります。このスポーツゴジラの長田渚左さんをはじめ、層々たる人たちが名前を連ねてオリンピック休戦の署名運動を展開し、かなりの人が署名しています。これ为国連本部の事務次長補をやっている担当者に送りましたら、ちゃんと返事が来ました。このような運動を日本で展開しておられるのは大変嬉しい、感謝しているという返事がありました。

「スポーツゴジラ」は、数年前に出た第20号で、「戦争とスポーツ」という題で特集を出しました。長田さんはこの特集号で平和でない

いとスポーツはできないということをはっきりと書いています。このオリンピックと平和の特集において、長田さんは戦前、アメリカの大リーガーが来日し、日本のプロチームと試合を行った話をあげています。当時わずか17歳であった沢村栄治ピッチャーが大変な活躍を見せ、大リーガーを翻弄したことに触れています。沢村はそのまま戦争に引張られ、おそらくもっと輝かしいスポーツ活動が出来たはずなのに、戦争にとられ悲惨な最期を遂げます。この柔道教育ソリダリティーの理事長山下八段も、モスクワオリンピックで、日本を含めた西側諸国がボイコットしたために、不参加になり涙をのんだわけです。幸いにして山下選手は1980年のロサンジェル

スオリンピック大会において決勝戦でラシワン選手を見事に破り、我々日本人にとり感動的な金メダルを獲られました。そのことは、皆さんも覚えておられると思います。

このように、スポーツはともすると戦争や紛争などに巻き込まれる。政治的な理由で、スポーツイベント自体がボイコットされる。そういうことは、ままあります。そのようなしたらスポーツをそういう紛争や戦争から防ぐことができるのか？また、平和のため、世のため、スポーツが貢献出来ないものだろうか？ということ色々な人たちが一生懸命考えていると思います。

平昌オリンピックでスピードスケート選手の小平選手が韓国人の選手にふと示した、さりげない優しい行動が、日韓のみならず世界中の人たちを感動させたエピソードもありました。

私自身、この戦争と平和の問題を国連での長い仕事の中で経験することがあったものですから、そのようなことを私の古い記憶から思い出し、その一部をみなさんに紹介したいと思っております。

少し古い話になりますけれども、1994年1月初めから私はバルカン半島の一端にある旧ユーゴスラビアに赴任しました。これは一つの国だったのですけれどもその後、6つの共和国に分かれ、あれよ、あれよという間に大きな内部紛争を起しました。その10年前まではヨシブ・ブロズ・チトーという大変偉い大統領が君臨し、この6カ国がともかくも協力し、ユーゴスラビア連邦という一つの形をとっていました。

ところがチトーが亡くなり、ユーゴスラビア連邦の国々もかなり経済状態が悪くなって、そのうちこれを構成している3つの民族が紛争を起します。特にボスニア・ヘルツェゴビナという国ではイスラム系が44%くらいを占めていました。その次に多かったセルビア正教徒に属するセルビア人は31%くらいを占めていました。3番目の数を占めていたのがクロ

## 旧ユーゴスラビア問題事務総長 特別代表として

アチア系の人たちで、ボスニアの総人口の17%を占めていました。どの民族も半分以上のマジヨリテイーを構成していませんでした。イスラム教徒が44%でそれに近かったわけですが、これをまとめるのは容易ではなかったのです。

西ヨーロッパ、特にドイツの当時の外務大臣であったハンス・ドイター・トリヒ・ゲンシャー氏はかなり強引な人で、彼はキリスト教徒、特にカソリック教徒であったクロアチア系の人たちをけしかけるということがよくありました。それで小さな紛争が起き、旧ユーゴスラビアのいくつかの国、クロアチア、ボスニア、セルビア、それからマケドニアの一部も巻き込まれたのです。

幸いにして、マケドニアにはキロ・グリゴロフという冷静で賢い大統領がおり、私も彼とは何度か会ってこういう英明な大統領もいるのだなと思ったのですが、他の大統領はやや血気盛んで相手に紛争をしかける、ないしは侮辱する

ということも平気でやって、ナシヨナリズムを高めていきました。そのような状況下で、ヨーロッパ

諸国が国連に対し、国連平和維持活動(PKO)を派遣してくれと言ってきたのです。当時の国連事務総長は、ペレス・デ・クエヤルという先ほども名前を挙げた、ペルー出身の優秀な事務総長でした。彼と彼の特別顧問であったサラス・ロバーツ・ヴァンスというアメリカの元国務長官の二人とも、本日は国連PKOを出したくなかったのです。というのは、PKOは、紛争が休戦や停戦になつてから、つまり実際にドンドンパチパチをやっている段階で初めて派遣され、休戦が続くようにするために色々役に立つものだからです。PKOはそんなに大きな武器を持って現地に派遣されるわけではありません。PKOに軍を派遣するのは、ないしは外交官を派遣するのは、ドンドンパチパチの最中のような状態を予想していかないわけです。一定の安定に持ち込まれ

たところで、国連はそれを永続させる知恵を出すというのが一般的な考え方です。

しかし、ヨーロッパの一角である旧ユーゴスラビアでは、実際に戦闘行為が行われていました。3つの民族の間で、血で血を洗う事件が起きているところに、PKOを派遣してくれということで、国連は嫌がりました。けれども、ヨーロッパ諸国がせがむものですから、まずクロアチアにPKOを派遣することにになりました。これがボスニアにも拡大していった経緯があります。

私は、ユーゴスラビアの前に、カンボジアの国連平和維持活動に1年半従事しました。カンボジアの4派の協定に基づき、国連による暫定的な統治をやりまして、最後には自由で民主的な選挙を行うことが出来ました。ポルポト派の反対にあいましたけれども、他の3派が協力し、選挙民の90%が参加する、大変良い選挙をやることになりました。

### サラエボの青空市場での悲劇

しかし、ユーゴスラビアでは残念ながらそうはいきませんでした。私が行ってまもなくの1994年2月5日は忘れもしません。ボスニアの首都サラエボの青空市場の悲劇が起きました。迫撃砲弾がどこからか1発飛んできて、68人の市民が無残な形で殺されたのです。約200人が負傷しました。

国連保護軍の本部がクロアチアのザクレブにあったのですが、翌朝、私は軍事部門の総司令官、フランス人のコットを連れ、サラエボに急遽飛びました。ボスニア政府の大統領とセルビア人勢力の最高指導者ラドヴァン・カラジッチの二人の間を行ったり来たりし、停戦をまとめ、危険な武器をサラエボから20キロのところまで撤去する提案をしました。セルビアのスロボダン・ミロシエビッチ大統領のところにも行き、このような馬鹿なことを止めさせてほしいと訴えました。

北大西洋条約機構(NATO)

も国連に協力し、停戦協定と軍撤退が2月11日までにまとまらな  
いならば、武器を国連の手にゆだねて撤去することをしない側を空爆する決定をしました。この空爆があるかもしれないことを私は一つの武器として、当事者、特にイスラム教徒が作ったボスニア政府側、それからセルビア人勢力に訴えたのです。

期限である2月11日の午前1時、その30分前にはホテルに帰って、ロビーに駆けつけていた世界中のジャーナリストへ、停戦と武器の撤退を取り付けることができた。よってNATOの空爆は必要ないことを宣言しました。

私の前にはそれを喜んでほっとした顔もありました。けれども、NATOが空爆に訴えることよって憎いセルビア人勢力をやっつけることがなかったと、失望するような顔もありました。両方の顔を見ながら、ホテルの自分の部屋に戻り、ウイスキーの水割りを作り、眠りにつきました。NATO

のデッドラインが血を見ることなく過ぎていったことに安堵したのを覚えていきます。

国連安保理事会は、平和の問題で色々動きます。カンボジアの時は、5つの常任理事国であるアメリカ、ロシア、中国、イギリスとフランスは非常に仲良く、5カ国のうち1カ国でも拒否権を使うと安保理は決定が出来なくなり、動かないのです。そのようなことはありませんでした。

しかし、ユーゴスラビアでは拒否権の行使は何度かありました。そうすると国連は機能しなくなります。国連はボスニアで安全地域を、サラエボを含めて6箇所作ったのですが、それは名前だけの安全地域となり、本当の安全や平和をもたらすことは、残念ながら出来なかったのです。

### 戦火に残る

#### サラエボオリンピックの跡

私は、ボスニアの首都サラエボと、パレという丘の上に存在する

セルビア人勢力の本部を何度も行った。来たりしました。サラエボは谷間にあるのですが、サラエボから丘を登っていきますと、10年前(1984年)にサラエボで開催された冬季オリンピックの施設、それに関連して建てられた美しい山小屋風の宿泊施設が多く残っていました。目を凝らしてみますと、

丘の上にはセルビア人勢力の百台以上の戦車や大砲が、サラエボの市内を見下ろしていました。しかし本当によく見ると、セルビア人勢力の兵士にはかなり老兵が多くいました。こういう戦争になったのでにわか仕立ての軍を作り、お互いやりあっていたわけです。

サラエボオリンピックは、平和な穏やかな雰囲気の中で行われたに違いないわけですが、そのたった10年後、その場所で本格的な民衆の血を血で洗う争いが行われたのです。しかも、争いの指導者たちは本当の政治家ではなく、即席の政治家でありまして、セルビア人勢力の最高指導者カラジッチは

地元の大学で心理学を教えています。彼が三島由紀夫の小説が好きだったことを聞いたので、私は彼と会った時、「あなたは本当に三島由紀夫の愛読者なのか」と聞いた。彼は「そうだ」と言うのです。私は三島由紀夫の書いた金閣寺を読んだことがあり、この人はもしかしたら破壊の美しさにしびれるような文学者かなと思ってちよっと不気味な感じを持ちました。

この人の下の即席の副大統領は、コリエビッチという人で厚い眼鏡をした学者的な人で、サラエボ大学でシェイクスピアを講義していたそうです。外務大臣は、クーハーという人で、彼は哲学を教えるという人です。どうも国際政治のことは、からっきし分かっていないようでした。しかしカントの話をする時は、目を輝かせて嬉しそうな顔で話していました。こういう空想的な非現実的な情緒的な政治家が、どういう決定をするか、非常に危なっかしいと感じていました。

国連は、色々な経験を今までできています。国連ができてから初めの70年余りは、冷戦の時代でした。アメリカと当時のソ連が、

共産圏と自由主義圏のそれぞれの盟主として君臨し、国家間の対立はありましたが、だいたい2つのキャンプに分かれ、きちんとした統制の下に国際関係は一応の安定はあったと思います。しかしながら、その間にも、中東地域とか、インドとパキスタンが戦争を起したカシミールなどでは国連がある程度、停戦を安定化させるために役に立ったと思います。

冷戦時代が、1989年にベルリンの壁がガラガラと壊れ、東ドイツと西ドイツが統合すると同時に終わりを告げました。米ソ間の核戦争が起きることを心配した世界は、ほっと安心したのです。これではようやく国連の下に、本物の平和がもたらされるであろうと期待を持ったわけです。

残念ながら、91年、92年頃から今までのような国と国との対立で

はなく、今度は一つの国の中での民族、部族、宗教の対立、言語の違いに基づくような内戦が次から次に起きてきました。

### 国内紛争の時代

内戦は、はつきりとした形では見えないので、かえって国と国との戦争より残酷なことがあります。これは一種の近親憎悪によるものだ、説明する人もいます。次から次に紛争が起き、国連も非常に忙しくなりました。

90年代の初め、カンボジアでは4派間の対立がありました。これが約20年続いた後に一応、和平協定を調印することができました。カンボジアの次には、アフリカの一角であるナミビア、それから同じくアフリカのモザンビークで紛争が起りました。カンボジア内戦が一番大規模で複雑ではありましたが、冷戦が終わった直後で、国連内でも割と雰囲気良く、安保理も決定することができ、機能停止に陥ることは幸いにしてあま

りありませんでした。

しかしそのうち雲行きが怪しくなってきました。南アフリカの一隅にあるソマリアで、大変無残な、これは民族と民族の紛争というよりも部族間の紛争が起きます。国連ないし多国籍軍として、これに介入した軍隊は多くの犠牲を払いました。アメリカの海兵隊は14名ほど殺されました。パキスタンの軍隊も20名近く命を失いました。そしてソマリアは無政府状態に陥りました。現在でもあまり良い状況にはありません。

それからアフリカの真ん中にある小さなルワンダという国があります。本当に小さい国ですけれども、フツ族とツチ族の二つの民族がいます。少数派のツチ族約70万人がフツ族の手にかかって大変無残な形で死を遂げました。これに関しては百人か二百人くらいに小さな国連PKOが派遣されましたけれども、国連は多勢に無勢でなにもすることが出来ませんでした。

そのPKO隊長は、カナダ人のロメオ・ダレールという人でしたが、絶望状態に陥り人生の後半は、アル中になってしまい、たいへんな目にあつたのですが、国連はこの悲劇を呆然として見るだけに終りました。

3番目が、私が関係した旧ユーゴスラビア。これはほぼ4年間に、約20万人の犠牲者を出しました。最後には国連に代わり、アメリカを主とするNATO軍が重装備の軍隊で、ともかく力づくで、民族間の紛争を止めさせることができました。

### 主権国家の集まりである国連

国連は一生懸命やってきました。ですので、我々が国連に対し、あまりにも過大な期待を持ちすぎると、結果として様々な幻滅ないしは失望を味わうことが多くなります。

国連は、世界政府でも世界連邦でもないのです。国連の本当の主人公は各国の主権を持った政府で

す。政府が国連に分担金をきちん  
と払わないと国連は予算を採択す  
ることが出来ませんし、兵力を派  
遣しないと国連の平和維持軍も構  
成できないわけです。

国連は成功することもあります。  
たとえば1956年、イギリスと  
フランスとイスラエルの三ヶ国が、  
エジプトがスエズ運河を国有化し  
たことに反対し、軍隊をエジプト  
に侵攻させました。幸いにして国  
連の多数の国々はこの行為に怒り  
ました。安保理事会はイギリス、  
フランスの拒否権のために何も採  
択できなかつたのですが、緊急特  
別総会が勧告により国連緊急軍を  
作り上げるといふかなり荒療治の  
決定を下しました。

スラビアのようなどころでは本来  
の機能を果たせなかつたわけです。  
国連は他のことは何もしてない  
かというところ、これは違います。最  
近では2015年に、「持続可能な  
開発のための2030アジェンダ」  
を採択し、非常に具体的なターゲット  
を決め、開発の問題、これに  
絡む色々な問題で具体的な進歩を  
世界中で呼びかけ、これを達成し  
ようと懸命になっております。絶  
え間なく続く人権や環境の問題に  
ついても国連は色々やってきてお  
ります。

国連は発足後3年目に「世界人  
権宣言」を採択しました。それは、  
20年後に単なる宣言ではなく、拘  
束力のある条約の形でまとめられ  
ました。今は国連人権高等弁務官  
というお目付け役が目を光らせて  
いて、人権理事会を定期的にジュ  
ネーブで行い、世界中の人権の状  
況を厳密に監視しております。  
世界は良くなっている点もたく  
さんありますが、残念ながら良く  
なっていない点もたくさんあると

思います。色々な国ではナシヨナ  
リズムが強くなってきています。

### 米朝首脳会談

6月12日に、シンガポールにお  
いて、アメリカのトランプ大統領  
と北朝鮮の金正恩主席とのトップ  
会談が行われました。これが成功  
したか失敗したか、様々な意見も  
出ていると思います。トランプ大  
統領は大向こうのうけを狙った、  
多くのジェスチャーを見せました。

1日間の会談で約5時間に亘る  
会談が行われたとされていますが  
れども、その結果出された共同声  
明なるものは実現性に乏しい。例  
えば、北朝鮮の核やミサイルを撤  
去、破壊するにしても、いつまで  
にやるのか、誰がそのプロセスを  
監視するのか、ごまかしなどの行  
為に対して本当に厳密な査察制度  
が採択できるのか、達成できるの  
かについての答えは出ていないの  
です。

ともかくもトランプ大統領と彼  
を支持する一部の新聞、ニューヨ  
ークタイムズでさえも、もしかし

たらという期待をかけている様子が見えます。トランプ大統領は一種の山師です。また金正恩主席は、過去において残虐行為や、1994

4年以來何度か国際社会との約束をごまかすような行為も平気です。つてきました。しかしながら北朝鮮もたいへんな悲惨な状況にあります。国民の生活が本当に破壊され、宇宙衛星から見ても北朝鮮の上空だけは真っ暗、電気がないという状況なのです。

そういう悲惨な状況の下で、何か新しい解決策を求めているのではないか。トランプ大統領と金正恩主席の会談はたった1日の会談であつたけれども、二人の間になにか相互の人的な信頼の芽がちょっと芽生えたのではないか。これを一つのきっかけとして育てていくことができるのではないか。それは大変リスクを伴う、危険を伴うことであるし、通常の外交の定石ではないけれど、このトランプ大統領の芝居から何か本質的な大事なものが生まれてくる可能性

があるのではないかと。というところで世界中のマスコミ、また識者の意見も割れているように思います。

トランプ大統領はディールメーカー(取引交渉者)を演じていて、ブラフやいろいろな芝居を伴うのですけれども、丁と出るか半と出るか、行方はまだわからないと思います。しかし我々は期待が満たされるかもしれないという希望が少しでもある以上は、それを見守る必要があると思います。

### 全ての国や人々が

#### 当事者として行動すること

我々が、今まで提起されたような交渉の失敗を記憶しながら、二度と同じことが繰り返されないよう、夢を世界中の人が語り合い、現実的で慎重な雰囲気を作り上げていくことは重要であると思われ

ます。わが国もまた、単なる傍観者ではないわけです。核保有やミサイルに関する検証(ヴェリファイケー

ション verification)のシステムが国際原子力機関によって作られる場合、日本はその予算の一部もしくは大半を出すことが期待されています。日本と韓国に対して、

トランプ大統領はすでに期待していると言っております。日本政府の目指す真の核のない世界、さらに拉致問題が明るみに出されることにも期待が持てると思います。

アジアの一角である北朝鮮が平和になり、国際社会の中に責任のあるメンバーとして戻るために、日本としてアメリカ、韓国、中国、ロシアなどと力を合わせてやれるだけのことをやる必要があります。単なる傍観者として行動することは許されないと考えます。

### スポーツが平和に

#### つながるように

平和の問題とスポーツの問題も、長田さんの言う通りで「平和でない」とスポーツ活動を自由に世界の人々がエンジョイ出来ない」と思っています。しかしながら、小平選手

が平昌で見せたように、スポーツマンたちの国境を越えた、イデオロギーを超えた、政治的な立場を超えた、個人と個人との技を競い合うと態度は、政治や外交に従事している人たちにも影響を与えると考えます。メダルの数を競いあ

うことだけがオリンピックでありスポーツであるという考えは捨てる必要があるかもしれません。そんな甘いことを言つて、けしからんと言われるかもしれませんが、けれども、私はオリンピックも下手をするとナショナルリズムの罠に引

つかかると思っています。柔道をはじめスポーツ界は、私が尊敬してやまない山下八段はじめ、優れたスポーツマン、スポーツウーマンによって率いられています。我々は国民であります、

それよりも「一人の人間」として自分の技、スポーツを競うという観点を決して忘れてはいけなと思います。忘れないからこそ、オリンピックが世界の祭典になりうるのです。



アジアでは、64年の東京オリンピック、それからソウルオリンピック、北京オリンピックがありました。オリンピックは、まさに新興国の誇らしい成人式の局面がありました。

しかし、今はもつと成熟した時代であって、オリンピックの意義もその時代とは違うものになってきているのではないかと思います。スポーツの世界も生々しい、時には血なまぐさい戦争や紛争の世界と密接な関係があります。そういう暗い破壊的なものを、出来るだけ少なくしていくという使命がオリンピック関係者の頭をかすめていると感じております。

スポーツと平和、スポーツと戦争は、全く無縁ではありません。ないどころか、うまくすると平和な世界を我々は築くことが出来るし、下手をするとナシヨナリズムや民族主義をあおりかねません。スポーツには、そのような要素も存在する気がすることを申し上げ、私の本日のつたない話に代えさせ

ていただきたいと思えます。

多少時間もある様子ですので、質問に答えることができると思います。どうぞ質問なりご意見があるときは、挙手して聞いてくださればありがたいと思えます。ご清聴たいへんにありがとうございます。

**司会** 明石先生、ありがとうございます。

いま明石先生からもお伝えしていただきましたように、どなたか1つか2つご質問がございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

**質問者** 今日はどうもいろいろと

すてきなお話ありがとうございました。ひとつお聞きしたいのですけれども、1964年の東京オリンピックに最後の聖火ランナーとして、坂井義則さんという陸上の選手が選ばれました。

その方がなぜ最後の聖火ランナーに選ばれたかという点、太平洋戦争の広島原爆の昭和20年8月

の6日生まれだったということですね。そのようなオリンピック委員会の判断というのは、私は個人的には素晴らしい判断だと思っておりますけれど、先生はどういうお考えをお持ちかお聞きしたいと思います。

**明石氏** 1945年8月6日に広島に原爆が落とされ、同じく8月9日に長崎でもう一発の原爆が落とされました。日本人だけではなく、世界中にそういうことが二度とあつてはいけないという気持ちの人は大変多いと思えます。

アメリカ前大統領であつたオバマ氏も広島を訪ね、ああいうことが二度とあつてはいけないと、短いけれど本当に珠玉のような言葉を使った演説をしました。

彼は大統領になつて間もなくチエコスロバキアのプラハで核の問題について演説をしました。それが大変素晴らしいものだったので、ノーベル平和賞をもらうことになったのですけれども、ノーベル平

和賞授与の際に彼が行つた、ノルウェーのオスロでの演説は、プラハの演説と全く違つて、核を廃絶することに關する明るい希望が、失われておりました。

彼はアメリカとロシアとの間に戦略核兵器の廃絶に向かつてかなりの進歩があつたことを認め、それを誇りにしつつも、一度できてしまつた原爆の知識自体を無くすることは出来ない。一人のテロリストが原爆を持ち、大きな破壊を与えることができる。人類の過去何万年にも亘る歴史を振り返つて、人間の闘争欲や権力欲をゼロにすることが出来るだろうかと思つておりました。

私は世界宗教者平和会議でも、この問題について取り上げたことがあります。けれども、どうやったら二度と核兵器が使われないよいうな世界を、また作られるから使われるのですから、作られないよいうな世界を我々が作ることが出来るか。北朝鮮の核も我々の目の前の問題です。けれども、安保理常

任理事国が全部、核兵器保有国なので。そのほかに、北朝鮮を除くとすれば、3つの国、インドとパキスタンとイスラエルが核兵器を保有しています

核不拡散条約という重要な条約はあります。わが国やドイツのように、きちんとそれを守っている国もありますが、そうでない国も出てきています。こういう問題をどう扱うか、核兵器を使用しないという条約を結ぼうという大きな動きがあります。日本政府は、今のところそれに参加していません。というのはわが国にとって、まだ核の傘が安全のために必要であるという考えに立っているからです。だから非常に難しい問題が介在しているわけです。大きな常識に立ち、核兵器のみならず、化学兵器、生物兵器などの大量破壊兵器があります。そのような残虐な兵器がない世界を目指す動きがこれからますます強まることを期待したいと思います。

### 司会

ありがとうございます。今日は本当に貴重なお話をいただきました。政治や宗教が巻き起こす、紛争や戦争のない世界を目指すために、強い忍耐力とそれから探究心、そしてなみなみならぬ知識を持って、臨んでこられたのだということが本当に、私の心に響きました。それに尽力いただいていた明石さんに敬意を表したいと思います。

本法人もこの12年間、宗教や政治の紛争のあるイスラエルやパレスチナ、それからボスニア・ヘルツェゴビナなどから柔道のコーチたちを招聘して、畳の上で交流するプログラムを続けてきました。これには継続したアプローチが必要だということ、お互い畳の上で理解すること、柔道の持つ力を感じていたところです。山下理事長が、よく話されるのは、「畳の上で戦う相手は敵ではない、お互いに磨き高める相手だ」と。この精神がもつと世界に広がり、紛争のある国家間に少しでも、理解してい

ただいて、柔道やスポーツの持つ精神が寄与できれば、もつと良い社会に、世界になるのではないかと明石さんのお話を聞きながら感じた次第です。

2020年の東京オリンピックは、国民が一丸となり成功させることは言うまでもありません。日本で開催する平和の祭典であるということも私たちが忘れずに、皆で一緒に臨んでいきたいと感じました。今日は本当に貴重なお話、心に響くお言葉をいただきました。明石さんにあらためて拍手を送りたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

\* \* \*

柔道教育ソリダリティーのバックナンバー講演録をご要望の方は、事務局0463(58)1211(内線3524)までご連絡下さい。講演録は、無料で配布しております。また、ホームページからもダウンロードすることが出来ます。

【<http://noo-jks.jp>】